

新生児患者情報データベース普及化への基礎的検討

(分担研究課題：周産期疾患の登録疾病名に関する研究)

研究協力者：猪谷泰史

要約：新生児患者情報の共通データベース化とその普及への基礎的検討として、我が国の主要新生児施設での患者情報管理でのパソコンデータベースの利用状況と利用ソフトウェアを調査し、利用度の高いデータベースソフトウェアを検討した。また病名コードの利用状況とその利用を促進するための問題点を調査した。

パソコンによるデータベース利用度は高く、パソコンではMac OS、ソフトウェアではファイルメーカーproの利用率が高かった。病名コードの利用率は低かったが、今後共通化し入力省力化に工夫できれば利用が高まる可能性が高い。

見出し語：新生児、患者情報データベース、病名コード、パソコン

研究方法:新生児連絡会の加入NICU施設154施設

を対象に記名アンケート調査を行った。

結果:アンケート回収率は112/154(73%)。

問1.患者情報管理でのデータベース利用？

はい83(74%) いいえ29(26%)

データベースを利用していない施設対して

問2.患者情報の整理は何を利用していますか

台帳30(97%) カード3 その他4

問3.コンピュータデータベース導入の障害は？

入力者と手間、パソコン、良いソフトがない

問4.共通データベースがあれば、利用するか？

はい49(44%) いいえ5(4%)

データベースを利用している施設に対して

問5.データベースの構築場所？

パソコン80(96%) 病院システム1(1%) 他2

問6.利用しているパソコンの種類は？

マックOS:56(70%) Windows(95, 3.1):8(10%)

DOS,NEC98:15(19%) その他:2(3%)

問7.ネットワークで利用しているか？

はい8(10%) いいえ72(90%)

問8.データベース作成ソフトは？

市販77(96%)(ファイルメーカーpro-51(66%,
Mac OSの91%), 桐-7, Access-5, dBASEⅢ-4)

特注3

問9.データベース入力項目数は？

0-25:14(17%),26-50:23(28%),50-100:24(29%),
101-200:12(14%),200-300:4(5%)

問10.データベース入力は主に誰が？

主治医38(46%) 特定医師35(42%) 代行9

問11.病院オーダリングシステムからの患者情報の利用(取り込み)は可能か？

ダイレクト3(4%) フロッピー16(19%) いいえ:62(75%)

問12.サマリー本文も入力していますか？

はい43(52%) いいえ40(48%)

問13.次の項目は入力していますか(重複可)？

母体情報70(84%) 処置71(86%) 薬剤
72(87%) 特殊検査61(73%)

問14.データベースの利用目的は(重複可)？

統計74(89%) 退院サマリー55(66%) フォロ
ーアップ46(55%) 研究調査57(69%)

問15.データベースは誰が利用(検索など)？

特定医師31(37%) 医師全員36(43%) 他15

問16.病名入力はどのように行っていますか

病名60(72%) コード9(11%) 併用23(28%)

問17.病名はいくつまで入力可能ですか？

0-5:6(7%),6-10:23(28%),11-15:10(12%),16-
20:7(8%),20以上:1(1%),無制限:38(46%)

病名コード入力を行っていない施設に対して。

問18.病名コード入力を行わない理由は？

未共通化27(45%) 面倒23(38%) 不要11
病名コード入力を行っている施設に対して。

問19.病名コードは何を利用していますか？

ICD10:19(59%) BPA:4(13%) ICD9:4(13%)
独自:9(28%)

問20.病名コード入力は誰が行っていますか？

主治医14(44%) 特定医師16(50%) 病歴管理
士2 その他6

問21.病名コードの入力後チェックは？

はい16(50%) いいえ21(66%)

問22.NICUへの年間入院患者数

0-100:25(20%), 100-200:37(33%), 200-
300:24(21%), 300以上:17(15%)

考察:我が国の主要新生児施設において患者情報のデータベース利用率は71%と高く、また共通データベースに対する期待も約半数にみられた。パソコンの種類はMac OSが70%と広く利用され、一般に広く利用されているWindowsは10%に過ぎなかった。データベースソフトウェアは種々だが、ファイルメーカーproが66% (Mac OSでは91%) と利用度が高く、他のソフトウェアの利用度は低かった。すなわちファイルメーカーproで作成すれば導入が容易で、高い利用度が期待できると考えられる。ファイルメーカーpro 3.0はマルチプラットフォーム対応のためWindows 95でも利用でき、利用度が高まると思われる。入力は医師が88%と高かったが、特定の医師と医師全員が半々であった。病名コードの利用度は30%と低かった。利用しない理由として、共通化されていないためとの意見が最も多く、次に入力が面倒との意見が多かった。病名コード入力は特定の医師が半数を占め、入力の手間の軽減が課題と思われた。利用病名コードはICD-10が59%と高かった。ICD-10をベースに共通化すれば利用度の向上が期待できると思われた。

結論:昨年度厚生省心身障害研究班で作成した病名コードデータベースは、ソフトウェアとしてファイルメーカーproを、病名コードとしてICD-10を採用しているため全国的に導入しやすく、幅広い利用が期待できると考えられる。
文献:猪谷泰史 データベースの作成と病名コード, Neonatal Care 1996;9:995-1002



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:新生児患者情報の共通データベース化とその普及への基礎的検討として、我が国の主要新生児施設での患者情報管理でのパソコンデータベースの利用状況と利用ソフトウェアを調査し、利用度の高いデータベースソフトウェアを検討した。また病名コードの利用状況とその利用を促進するための問題点を調査した。

パソコンによるデータベース利用度は高く、パソコンでは MacOS, ソフトウェアではファイルメーカー pro の利用率が高かった。病名コードの利用率は低かったが、今後共通化し入力の省力化に工夫できれば利用が高まる可能性が高い。